体験学修を基盤とした教育実践演習への取り組み

島根大学教育学部附属教育支援センター
池　山　圭　吾

１．はじめに

教育職員免許法の改定に伴い，新たに 4 年後期に導入することが義務づけられた『教職実践演習』には，これまでの教職課程の履修履歴を把握し不足している知識技能を補うこと，さらに，教員に必要とされる資質・能力の取得を審査することなどが求められている。課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり，全学年を通じた「学びの軌跡集大成」として位置づけられているものである。

２．本学の教員養成カリキュラム

複雑化・多様化する社会の中で教員に求められるものは，教職への限りない情熱と，様々な教育課題に対応できる優れた教育実践力である。子どもに対する教科指導だけでなく，保護者や同僚とのコミュニケーション能力，地域社会での対人関係力なども広く含まれている。島根大学教育学部では，こうした教育実践力を教職に不可欠の力と捉え，これを徹底して養成するために「1000 時間体験学修」の必修化を取り入れ，卒業要件とした。

1000 時間体験学修には，基礎体験領域，学校教育体験領域，臨床・カウンセリング体験領域の 3 領域があり，学生達は幅広い分野での体験活動に積極的に取り組むことにより，教師に必要な社会性や豊かな人間性を身に付けてきている。また、学校教育実習Ⅰ～Ⅵや教育体験活動（基礎体験活動）、臨床カウンセリング実習などにも意欲的に取り組み，様々な教育課題に立ち向かう教育実践力も高めてきている。教職実践演習のための授業改善は行っていないが，体験学修を基盤として取り組んでいる教師力育成や学びの軌跡をまとめる評価システムは，教職実践演習に繋がるものであると考えている。

≪教育実習と教育体験活動の往還による学び≫

3 年後期の実習セメスターは，教育実習Ⅳ（本実習）と教育体験活動との学びの往還が可能であり，学校理解、学習者理解、授業実践力などの大きな教育効果をあげている。また，4 年生の教育体験活動への参加も年々増えてきており，学生間において実践的体験の価値が認

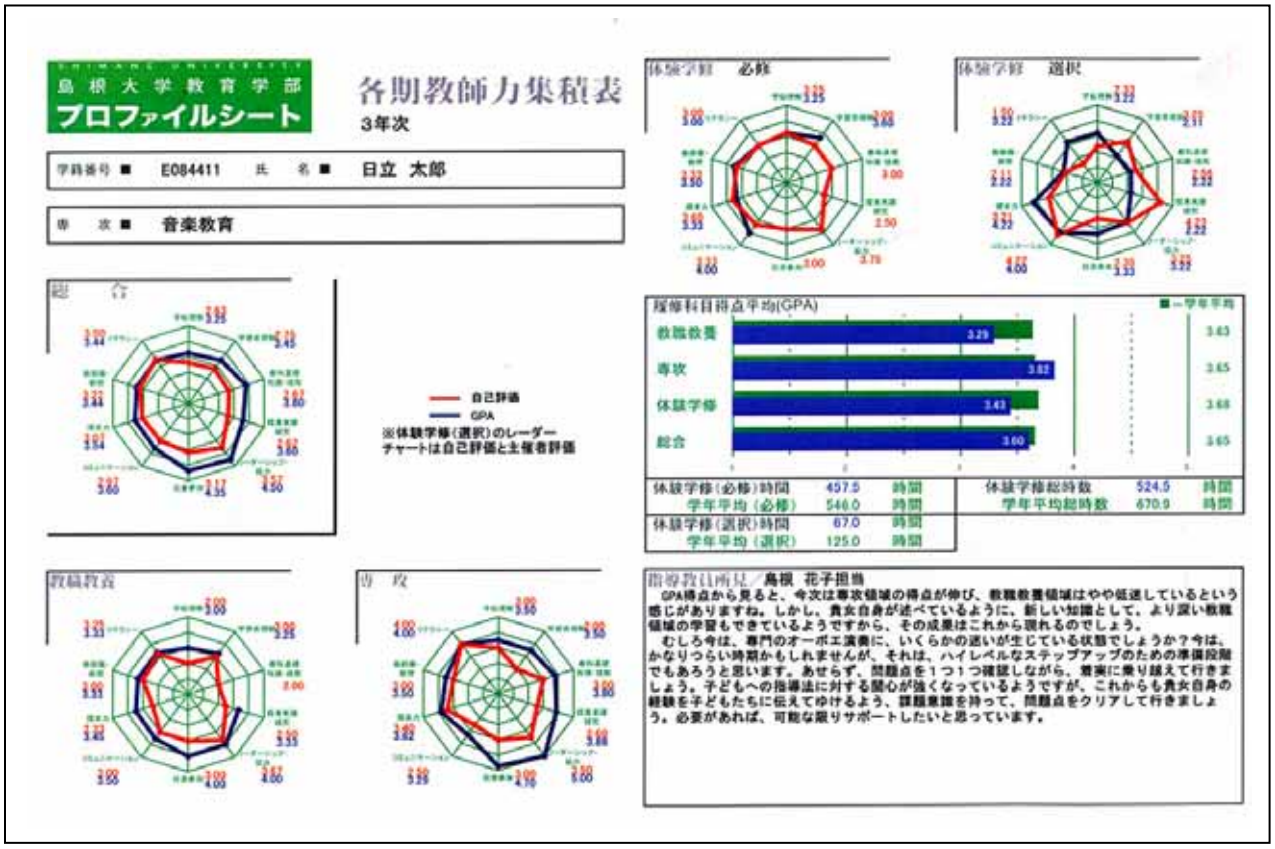
知されてきている。ここでの学びは，教育実践演習でロールプレイや模擬授業を行う上での状況把握の基礎となるものであり，3・4 年次の教育体験活動は教育実践演習に繋がる有意義な活動であると考えている。

≪C 系 G 系による臨床マインドの育成≫

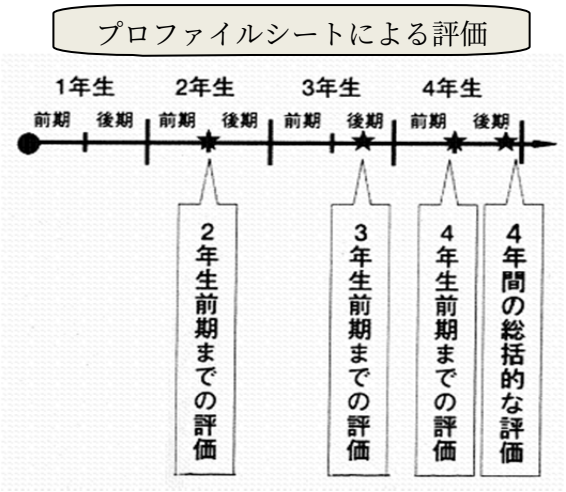
臨床・カウンセリング体験領域では，2 年後期から 3 年前期にかけて C 系【子ども・保護者に対する支援を想定した実習】と G 系【学級集団形成など集団における支援を想定した実習】を行っている。これは，いじめや不登校、学級崩壊などの今日における教育的課題に対応する上で大切な臨床マインドを育てるものであり，ロールプレイやグループ・エンカウンターなどをもとに学び合っている。これらの実習の中には，教育実習Ⅳで出会う子ども達との問題場面を想定して行っているものもあるが，今後は教育実習中に直面した問題を教職実践演習における課題として設定することも可能であり，より実践的な取り組みが期待できる。

≪プロファイルシートによる学びの可視化≫

プロファイルシートシステムとは，学生の「教師力」の成長を可視化するものである。「教師力」は 3 分野（教育実践力・対人関係力・自己深化力）に含まれる 10 の軸から構成されており，学生はこの各々の軸の力がどの程度の段階にあるかを「自己評価」することによって，現時点での自分の「教師力プロフィール」をレーダーチャートの形で視覚化することができる。同時にプロファイルシートシステムには，これまで習得した単位のＧＰＡ得点や 1000 時間体験学修時間の集積結果という「客観的評価」指標も入力されている。学生の自己評価に基づくプロフィールとＧＰＡ得点等の客観的指標，および学生自身による「自己振り返りレポート」は，データとしてそれぞれの学生の専門指導教員に送られ，各指導教員は自分の担当学生についてＷＥＢ上で指導コメントを「他者評価」として書き込んでいる。



教職実践演習を実施する上で,4 年前期終了時までの学修課程及び到達状況を明確にし，個々の学生の「教師力」の習得状況を把握することは不可欠である。しかし，教師力の習得状況を単に教職実践演習で評価すればよいというものではない。プロファイルシートによる学生の「学びの履歴」は，大学生活の節目の場面で行い，学習状況と成果を確認し適切な指導を行うことが重要である。現在は 4 年間で 4 回の記入・作成を行い，評価・指導を行っている。



３．教職実践演習のコンセプト

大学４年間で学んだ学習知と教育実習や学外教育体験活動などで得られた教科指導力や生徒指導力等の体験知との統合を図り，使命感や責任感に裏付けされた確かな「教師力」の構築とその確認を行う。

（１）授業科目の単位数及び授業体制

・単位数：２単位　　・授業形態：演習　　・履修年次：４年次後期

（２）授業の到達目標

・本授業の目標は，４つの事項が教職に就くに相応しい程度に身に付いているか確認することである。

１）教員としての使命感や責任感，教育的愛情を有しているか。
（下記「プロファイルシート」の⑨に関連）

２）教育現場で必要な対人関係能力を持っているか。
（下記「プロファイルシート」の⑤⑥⑦に関連）

３）学級経営等に必要な学校理解，幼児・児童・生徒理解，保護者理解に関する実践的知識・技能を有しているか。　（下記「プロファイルシート」の①②に関連）

４）教科指導に必要な教育実践力，探究力，リテラシーなどを有しているか。
（下記「プロファイルシート」の③④⑧⑩に関連）

（３）教員の連携・協力体制

・プロファイルシートにより履修履歴を把握・確認し，教員としての資質能力に関する各学年の課題を明らかにした上で履修計画（共通演習プログラムと個別課題プログラム）を作成する。

・主として専攻別に行い，「教職に関する科目」担当教員を主担当とし，専攻（コース）の「教科に関する科目」担当教員との共同により演習授業を実施する。

・模擬授業の実施にあたっては，附属学校教員、大学院の現職派遣教員，附属教育支援センター専任教員（島根県・鳥取県から人事交流教員）が加わり，現職教員の視点から指導にあたる。

（４）授業の概要

１）プロファイルシートによる履修履歴の把握と課題の明確化

４年前期終了時までの学修課程及び到達状況を可視化したプロファイルシートを用いて，個々の学生の「教師力」の状況を把握し，演習において何が課題となるかを明確にする。具体的には、次の A~C(①～⑩)の個々の能力について検討する。

A《教育実践力》　①学校理解　②学習者理解　③教科教育基礎・技能
④授業実践研究

B《対人関係力》　⑤リーダーシップ・協力　⑥社会参加　⑦コミュニケーション

C《自己深化力》　⑧探究力　⑨教師像・倫理　⑩リテラシー

２）演習課題の設定

個々の学生の教師としての長所や課題について，担当教員を中心にグループ協議を進める中で，共通の演習課題と個別の演習テーマを設定する。

３）課題に関する実践発表の実施

学校教育現場の現職教員等が加わり，設定された課題に基づいてグループ発表（ロールプレイ・事例研究フィールドワーク）や模擬授業などを実施する。

４）総括協議

実践発表の結果をもとに，今日の教育現場の状況を踏まえた課題や展望等について協議を深める。

５）学生に対する評価

授業への取り組み，グループ協議及び発表、模擬授業等を踏まえ，教員として必要な資質能力が身についているかを総合的に判断するとともに，終了前に最後のプロファイルシート入力を行い，４年間の総括的な評価とする。

４．今後の課題

1000 時間体験学修による体験活動を積み重ねることにより，学生は子ども理解，人間関係力，授業実践力などの多様な力を身につけてきている。これらの学びを基盤とした上で教職実践演習を受講することは，より現実的な演習課題を設定し，十分な状況把握のもとで取り組むことができ，より高い学びが期待される。しかし，現在の取り組みとの繋がりが不十分のものもあり，今後は以下の点を中心に工夫改善を図っていきたい。

・3・4 年次の教育実習や教育体験活動の更なる充実と，実践からの学びを教職実践演習に繋げるための手立て。

・Ｃ系Ｇ系での実習を踏まえた，教職実践演習での効果的な演習授業の組み立て。

・教職実践演習のねらいに迫るための，プロファイルシートの質問項目の見直し。

・指導の充実に向けた，教職担当教員，専攻教員，現職教員等の連携・協力体制の強化。